クラス	TU111	担当教員	山本　敏郎
テーマ	福祉をベースにした教育実践の研究		
著書・論文 研究課題等	○『教育改革と 21 世紀の学校イメージ』いしかわ県民教育文化センター　2000 年 ○『 学校と教室のポリティクス 』フォーラム A　 2004 年 ○「教育と福祉の間にある教師の専門性」日本生活指導学会『生活指導研究』28 号　エイデル研究所　2011 年。 ○「貧困の何を問題にすべきか」『生活指導』2009 年 8 月号 ○「〈格差〉〈貧困〉問題と生活指導」『生活指導』2008 年 7 月号 ○「加害の側の子どもの苦悩に寄り添い、つなげる―〈加害者〉と〈被害者〉との境界線をこえる―」『生活指導』2007 年 6 月号		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：生きづらさ、貧困、虐待、生活指導、インクルージョン、当事者性　etc.

目的、内容、方法、授業計画等：

生きづらさをかかえて苦しんでいる子どもたちをどう支援できるのか、生きる支えとなる学習をどうつくることができるのかを研究します。

生きづらさとは、子どもたちがもっているさまざまな要求や願い（発達要求や存在要求と言います）―友達がほしい、居場所がほしい、自分のことを認めてほしい、思い切りサッカーがしたい、学校をやめたくない、お父さんと一緒に晩御飯を食べたい…―が、自分の能力以外の理由で、かなえられない状態のことです。その根底に、経済的困窮、政治的棄民、社会的排除、文化的剥奪、心理的自己否定からなる貧困（poverty）があります（1 年前期の「子ども発達学入門」参照）。福祉とは、その逆に、経済的困窮がなく、政治参加（意見表明）が保障され、社会的に包摂され、文化的資源へのアクセスが可能で、自己肯定感が高い状態のことをいいます。

いま学校は二つの力の綱引き状態にあります。ひとつは、この貧困や生きづらさを再生産したり、貧困や生きづらさをかかえた子どもたちを排除する力。もうひとつは貧困や生きづらさを抱えた子どもたちの声を聴き取り、子どもたちに「生きられた」学校や社会をつくろうとする力。

福祉をベースにした教育実践とは、後者、つまり子どもたちがもっている要求や願いを実現する方向での教育実践のことです。このゼミでは、こうした実践している全国の教師たちと交流しながら（実践記録を読む、直接訪ねる、研究会に参加する、理論書を読む…）、福祉をベースにした教育実践をつくる力を身につけていきます。

担当教員からのメッセージ

テーマとキーワードは今、山本が関心を持って研究しているものです。こういうことを考えることのできる教師や保育者になってほしいと思います。それが日本福祉大学で学んで教師になることの意味あるいは MISSION だと思うからです。

まず、自分が 2 年間何を学びたいかをじっくり考えてください。それをもって相談に来てください。卒業するころには、間違いなく、「知る―疑う―確かめる」力がみにつき、学ぶことが楽しいと感じることができるようになります。詳しくは 4 年生に聞いてください。

参考までに、今 4 年生が取り組んでいる卒業研究論文を紹介しておきます。

○発達保障理論における発達診断の位置、○障害者にとって働くことの意味、○障害と個性、○教育と福祉の統一、○スポーツ指導者論、○親密圏における子どもの関係性、○「キャラゲーム」のなかの子どもたち、○虐待―親の立場、学校での取り組み、○弱さの自己受容は可能か、○言葉と表現、○ゼロトレランス、○べてるの家の当事者研究、○子どもの貧困を克服する

どのテーマも取り組んだ人の、その人なりの「思い入れ」、どうしてもこれに自分なりの答えを出したいという問いがあります。というかそれが少しずつ見えてくるのがゼミです。じっくり自分のテーマを見つけてください。